

平成29年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友達となかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
--	--	--

本校では、児童理解のための研修や朝会、子ども支援部会などを定期的の実施している。また、必要に応じてケース会議を開催し、支援を要する子どもの教育の在り方や具体的な支援方法等について、検討を重ねている。そういう取組の結果が、「1一人一人の児童生徒の尊重」において、4・3評価の合計が教職員100%であることや、3・4の評価をした児童・保護者89%という評価に表れている。しかし、昨年度に比べ児童・保護者の評価は若干低下している。今後も、校内での支援体制を整え、組織としての対応力を高めていくとともに、外部関係機関等との連携をさらに密にし、児童一人一人の実態に応じた教育活動の展開に努めていきたい。

2「友達への思いやり」では、昨年度に比べ児童の4評価が9.8パーセント上がっている。また昨年は2.4パーセントだった1表かが0になっている。3「道徳・心の教育の充実」では、道徳の研究授業や研修を校内研修で行うなど研修を深めると共に、毎週火曜日のVS活動や10月の「なかよし集会」の取組等を通して、子どもたちの心の教育の充実を図ってきた。今後も、道徳・心の教育の充実やいじめ・様々な問題への迅速な対応に努めるとともに、家庭訪問や懇談会など様々な機会を利用して学校の取組を保護者に分かりやすく伝えていく必要がある。

②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 ICT活用</h4> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
---	--	---

5の授業力向上については、教師の評価は上がっているものの児童児童の4・3評価はやや低下しているという結果だった。校内研修や毎学期の授業公開交流週間の取組により、授業の質が高まりを教職員が感じていることは評価できるが、児童の1・2評価が18パーセントだったことを重く受け止める必要がある。今後は、さらに子どもたちがワクワクしながら積極的に参加でき、分かる喜びを味わえるような授業づくりに努めるとともに、家庭としっかり連携した家庭学習の実施等により、児童の意欲的な学習態度の育成に努めていかねばならない。また、ICT機器の活用に関しては喫緊の課題と捉え、研修・実践を重ねていきたい。

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

昨年度と比べ、教職員の4・3評価が約6パーセント低下している。一方、児童については、3・4評価の合計が昨年から6パーセント上昇している。「好き嫌いをなく食事」に関しては、日頃の給食指導、昨年より取り組んでいる「お弁当の日」による食育指導などをさらに充実していきたい。「適度な運動」に関しては、持久走や長縄跳びなどの全学級での取り組みのほかに日常的な運動を促す場の工夫や設定を今後も工夫したい。

<h3>①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h3> <h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。</p>	<h3>②特別支援教育の推進</h3> <h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
--	--	--

教職員の評価も3・4評価が100パーセントであり、児童の1・2評価も昨年より減少した。これも「一人一人を大切に、みんなで伸びる授業づくり」を継続して校内研修のテーマに掲げ、全職員で取り組んできた成果であり、児童理解朝会等の充実の表れでもあろうと考える。一方、保護者は学校の支援体制については評価が上がったものの、児童理解に対する評価は5パーセント低下している。今後も、一人一人の児童理解に全力を尽くし、それぞれの良さや伸び等を、学級懇談会や学年・学級通信、学校だより等を通して、保護者へしっかり伝えられるように努めていく必要がある。

<h3>①子どもたちの身近な安全対策の充実</h3> <h4>11 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<h3>②最適な学習環境の整備</h3> <h4>12 施設・設備の安全管理</h4> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
--	---

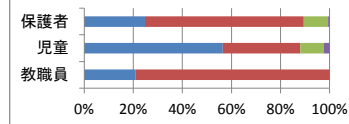
教職員は昨年同様3・4評価が100パーセントであった。また、児童の評価も昨年より上昇している。本年度、各種訓練を計画的に実施していることなどの成果といえる。今後も、起こりうる具体的な事例を想起しながら「事故を未然に防ぐ」ことを重視した取り組みをさらに進めていきたい。

昨年とほぼ変わらない評価であった。本年度は施設の改修やエアコン設置などの工事があり、児童の学校施設への意識も自然と高まっていたようだ。今後も安全点検の徹底や特別教室の整備に努めていきたい。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

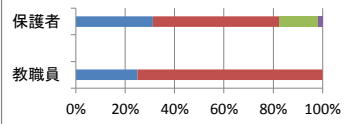
学校は、家庭や地域と連携、協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



今年度も1年生と老人会とのふれあい交流の他に、ミントの会によるふれあい工作会やミントの会と2年生とのふれあい給食、5年前から始めた6年生と老人会とのグランド・ゴルフ交流会等を実施した。子どもたちは、それぞれの交流体験を通して、地域のよさや人々の温かさを実感することができたように思う。「連携・協力」が足りないと感じている保護者が昨年度より増え、17.7パーセントになっていることを重く受け止め、今後も保護者や地域へ歩み寄る気持ちを全職員が持ち、より「地域・社会に開かれた学校」を目指し、ホームページ、PTA総会や学級懇談会等、機会を捉え情報の発信に努めていくとともに、学校の教育方針や目標についても分かりやすく伝えていく必要がある。

14 家庭や地域との連携協力

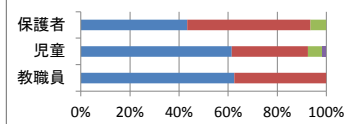
子どもたちが安心して過ごせる学校になるように取り組んでいますか。



④本校の教育

15 安心できる暮らし(徳)

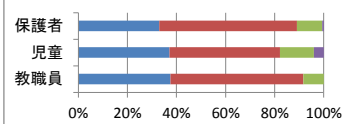
子どもたちが安心して過ごせる学校になるように取り組んでいますか。



15「安心できる暮らし」については、4評価を昨年度と比較すると、保護者は上昇しているものの、教職員、児童は低下している。4・3評価の合計で見ると、教職員100%、児童・保護者93%と、取組に対する満足度の割合が高い。教育相談の充実、毎月のアンケート、その他、日々の活動の中で何かあればすぐ対応してきたことが、子どもたちの安心感につながり、子どもの声や生活を通して保護者へも学校の姿勢を感じていただけたのではないかと考える。16「学び合いの授業づくり」については昨年度とほぼ変わらない評価になっているが、児童の1・2評価が5パーセントほど低下した。今後も「聴き合う」授業という視点で学びあう時間・場の設定について省察し、次に生かしていきたい。17「進んで運動に親しむ」では、教職員の4評価が12パーセント低下しており、課題と捉えていることが分かる。児童の1・2評価も0パーセントあることから、この結果を縄跳び、持久走などの学校全体での取り組みに生かしていきたい。

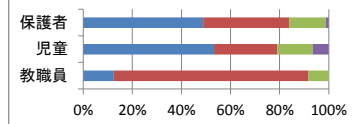
16 学び合いの授業づくり(知)

すべての授業で、子どもたちが、友達のことを聞いたり、自分の考えを伝えたりして学び合う時間(場)を設定していますか。



17 進んで運動に親しむ(体)

子どもたちは進んで運動に親しんでいますか。



来年度の具体的な取り組みについて

- 今年度の学校評価をふまえ、下記の8点について、全職員一丸となって取り組む。
- 年度初めの家庭訪問や各学期の学級懇談会を充実させるとともに、日常的な家庭訪問や電話連絡等の機会を活用し、こまめな連絡により保護者との信頼関係を築いていく。
 - 学校だよりや学年・学級通信等の内容をさらに工夫したりして、学校の教育方針や取組を分かりやすく伝える。
 - V/S活動を柱としたボランティア活動や道徳の授業、自主的実践的態度を育成する特別活動を中心に、心の教育のさらなる充実を図る。
 - 今年度までの研究テーマを継続し、「学び合い」を柱に、確かな学力の向上と自尊感情の育成に努める。
 - 「生活習慣チェックカード」の活用による健康習慣の振り返りを今後も継続して行い、健康生活の定着を図る。
 - 体育の授業や業間活動を充実させ、体力向上を図る。
 - 定着してきた「弁当の日」のさらなる充実に向けて保護者と連携を密にしながら取り組み、児童の「食」に関する意識の高揚や感謝の念、生きる力の育成に努める。
 - 学校独自のいじめ防止基本方針を見直し、いじめのない学校づくりのため、人権意識を高めるとともに、教育活動全体を通して、互いに認め合う人間関係の構築に努めていく。

学校関係者評価

本年度は校舎や体育館の改修、エアコン設置など校内の工事が長期に渡り続いたが、保護者にも学校の現状を理解していただき「施設・設備の安全管理」に関してもおおむね良好な評価を受けた。また、昨年度までの課題であったホームページによる情報発信、児童に対する情報モラル教育なども改善・実施することができた。評議員の方々からは学校の取り組みに対し地域・保護者との連携などについて高い評価を受けることができた。また、児童の地域での挨拶の様子などについてもご意見をいただいたので、今後の指導に生かしていきたい。

新学習指導要領実施に伴い、カリキュラムマネジメントや授業改善が求められる。教職員の研修を深めることはもちろん、保護者、児童の思いをしっかり受け止めながら課題を改善していきたい。